

# 第4回「教師のための難民問題ワークショップ」

## 報告書

### 1. 目的

一般社会や子どもたちの難民問題についての認識はまだ低い。そこで、先生方に難民問題を教えるきっかけをつかんでもらい、より多くの子どもたちに難民問題を学ぶ機会を提供してもらうことを目的とする。

### 2. 実施概要

実施日： 2006年7月27日(木)、28日(金) 午前10時～午後5時

会場： 国連大学ビル(UNハウス) 5階会議室

対象： 小中高等学校の先生

講師： UNHCR 職員、日本 UNHCR 協会職員、助っ人講師

主催： 認定 NPO 法人 日本 UNHCR 協会

共催： UNHCR(国連難民高等弁務官駐日事務所)

後援： 外務省・文部科学省・渋谷区教育委員会

### 3. 参加者 25名 (小学校/10名、中学校/9名、高校/6名)

### 4. ワークショップ内容

#### 1日目

10:00 開会挨拶 (榎川 勝也/日本 UNHCR 協会 常務理事・事務局長)

10:10 講座の目的・内容等の説明 (中村 恵/日本 UNHCR 協会 シニア・マネジャー)

10:15 参加者自己紹介

参加の動機や何を学びたいか、実際に行った授業の簡単な紹介等を  
交えながらの自己紹介

10:45 難民と UNHCR 基礎知識 (武村貴世子/助っ人講師、中村 恵)

難民の定義、UNHCR の設立経緯、UNHCR の活動

11:45 昼食

12:45 難民キャンプの現場から (井上 清治/日本 UNHCR 協会 マネジャー)

①緊急事態：チャドのスーダン難民キャンプ

②長期化する難民問題：タイのミャンマー難民

③帰還/第三国定住：パキスタンのアフガン難民

キャンプを訪問した職員の写真を見ながら、キャンプでの生活の様子、

UNHCR の具体的な支援、それぞれのケースがかかえる問題点等の説明。

14:00 難民保護入門&日本における難民支援

(金児 真/UNHCR 駐日事務所 法務部)

実際に難民申請中の方と接する UNHCR 駐日事務所・法務部より、日本の難民認定制度、改善されている点等の説明。

日本で難民認定された方の背景や、現状、インタビューをビデオを通して知る。

16:50 UNHCR 駐日事務所代表からの挨拶

(Robert Robinson/UNHCR 駐日事務所代表)

## 2 日目

10:00 UNHCR 駐日事務所副代表からの挨拶 (岸守 一/UNHCR 駐日事務所副代表)

10:10 海外勤務経験者による講演

(清水康子/UNHCR 職員:国際協力機構 国際協力シニア・アドバイザー中村 恵/日本 UNHCR 協会 シニア・マネジャー)

帰還を支援していたアフガニスタンでの活動を写真等で紹介。

帰還事業に女性を参加させるため、また自身が女性であるためのイスラム社会ならではの苦労話。

11:30 昼食

12:30 学習指導案作り

小・中・高校の班別で、授業のねらい・進め方などの学習指導案を検討。

少人数のグループなので、各自の授業方法を紹介したり、十分な授業時間が取れない中での工夫などを話し合いながらの指導案づくり。

15:30 発表

<小学校>6年生対象

1)「世界難民の日」をきっかけに調べ学習・DVD 鑑賞

2)子ども達から出てきた、知りたいことを整理する。

くらし、教育、食べ物、家族、遊び、夢 など

3)上記のことについて、予想したり調べたりする。

ビデオ、パンフレット類、本など

4)教師から UNHCR の活動などを説明する。

**まとめ** UNHCR を訪問、質問状を送るなど

<中学校>3年生対象

1)グループごとに難民に関する自分たちの考えを整理する。

2)「難民について知りたいこと」を各自プリントに記入する。

→このプリントは教師が回収し、今後の学習内容になるべく反映させる。

3)知る活動→絵本「ほんのすこしの勇気から」やパンフレット「わたしたちの難民問題」を読む。

DVDなどを視聴する。

ゲストティーチャー(日本UNHCR協会の方など)の話を聞く。

4)交流活動→UNHCRを訪問

難民問題に関わっている各種団体と連絡を取る。

難民スクールの生徒たちと交流活動を始める。 例)手紙・絵画

**まとめ** ポスターセッションなどの方法を用いた学年合同での発表。  
学習のまとめりとしての活動は終了しても、交流活動などは、  
その後も継続し、発展させていく。

<高校>1年生対象

- 1) 写真を使って(ポスター、写真集を利用) 難民問題に気づく。  
共感・関心 “この子供たちは何をしているところですか?”
- 2) 講演会  
UNHCR の方より現地報告、背景(歴史)の講義を受ける。
- 3) さまざまなメディアを使って、グループ毎に調査。

**まとめ** 発表 「共感」以上のものを感じる。  
世の中、世界情勢が複雑であること→解決は単純ではないことを知る  
日本の政治への関心(難民受け入れ)  
募金活動

16:50 閉会あいさつ (榎川 勝也)

5. まとめ(参加者のコメントから)

- ・ 参加動機は、難民問題と現状を基礎から学び国際理解教育や総合の学習に活かしたいとの声  
が多数だった。
- ・ 視覚に訴えるビデオやキャンプの写真は理解を深めるのに役立ち、海外勤務経験者の話は  
大変興味深く聞かれ、質問も多岐に渡った。しかし、後ろの席ではスクリーンが見難いという課題  
も残った。また、講義の時間が長く、もう少し参画型の分量が多いほうが良いとの意見もあ  
った。
- ・ 難民問題に関しては初心者だという自己紹介も多かったが、1 日半の講義後の学習指導案作り  
では、さすがに現職の先生方だと思わせるような要点のまとまった、学齢にあった指導案が発表  
された。
- ・ UNHCR 駐日代表を初め主催側からの挨拶では、教育に携わる先生方に対しての期待なども語  
られ、参加者には好意的に迎えられた。
- ・ 各校の取り組み事例、各先生の考え方などについて情報交換ができ刺激になったとの感想も  
多く、これを機に作成されたメーリングリスト(ML)が情報やアイデア交換の場として  
活用される事、また各学校で実際に授業でフィードバックされたという報告を期待したい。